

本日は母の日礼拝です。神様は女性に母としての役割をお与えになりました。

「アルキメデスの原理」を知っていますか？船が浮かぶ「浮力」という原理です。今から2200年ほど前、ギリシャの王様が金の王冠を作るため職人に金を渡しました。ところが王冠の授与式の時にアルキメデスは王冠の色が薄いと感じ、祝宴の中王様に伝えました。これは王様にとっては恥です。そこで、王様はアルキメデスに命をかけて王冠が本物か偽物かを証明せよと命じました。命がかかっています。アルキメデスは来る日も来る日も知恵を願い求め、考え続けました。そして、ある日お風呂に入った時に入れすぎた水が溢れ、自分の体が浮くのがわかりました。毎日考えていたからわかったのです。それがきっかけとなり、アルキメデスは浮力を発見したのです。

自らを考えられない女性は子どもや誰かが何かを求めてきた時にすぐにその願いに答えてしまいます。けれど、神様が女性に与えられた役割は「神様の前にあきらめずに願う姿」です。今日の箇所に出てくるカナン人の女性はまさにその姿です。私達は明確な願いがわかっているのでしょうか？「幸せになるように」「神様の栄光をあらわせるように」…でも、「幸せ」「栄光」が何かわかっていますか？わからないならば、幸せをどう願い、どうすれば栄光をあらわすことができるのか…その根本を考えていないのです。

① **あなたの車はだれが運転手？** イエス様と一緒に走っていてイエス様がウインカーを出したら「何でそっちに！？」「そっちには行きたくない！！」と言っていないですか？私達には遠回りに見えたり、細い道、荒れた道かもしれません。けれど、イエス様が行かれる道が近道であり、安全なのです。②**何を優先に？First.** 十戒の一番最初で「あなたには、わたしのほかに、ほかの神々があってはならない。」（出エジプト20：3）と神様は言われています。今日は5つの神々を見てみましょう。financeお金・収入…神様は管理するために、そして、私達には必要なことを知っておらるので与えて下さっています。けれど、これを最優先し、これに頼り、安心を求め、自分を喜ばせるためだけに用いていくこと、これが神化です。「だから、神の国とその義とをまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます。」（マタイ6:33）神の国とその義とは、困っている人に水一杯を差し出すこと、もてるものをもって右手のしたことを左手に知られないようにして誰かを助けることです。女性は特に持てる環境や持ち物に頼りやすい弱さがあります。時には子ども、家族さえそういう存在となります。これらすべては神様から預かったものです。正しく管理をしなければ正しくなりません。子どもが願ってきたことに対して母親が何でもすぐに答えを出してはいけません。「一緒に神様に願おうね。」と神様に願い、願えばかなえられることを教えるのが母の仕事であり、子供にとって一番必要なことなのです。interest興味…神様に対してどのように興味をもっていますか？私達が心から神様に賛美をおささげするのは賛美は信仰告白だからです。ダビデもそうでした。調子が悪い時もすぐに賛美をおささげしました。裸で神様の前で力の限り踊りました。賛美を通して「主の教えを喜びとし、昼も夜もその教えを口ずさむ」ことができるのです。relation関係…私達の間関係は「イエス様ならその人とどうかかわるか？」それがすべてです。「求めなさい。そうすれば与えられます。捜しなさい。そうすれば見つかります。たたきなさい。そうすれば開かれます。」（マタイ7:7）これは聖書の原則です。イエス様が弟子と共に歩まれたように、自分でさわって、自分でかかわって、一緒に求め乗り越えていく。これがイエス様の生き方です。scheduleスケジュール…忙しいという思いでいっぱいならスケジュールに管理されてしまっています。充実しているならスケジュールを管理しています。やることがいっぱいでしょう。だからこそ、管理して下さい。troubleトラブル…自分のことはいつも後回しで他の人最優先。実はこれは間違いです。私達が生きて輝いて元気だからこそ、子どもやかかわる人は輝くのです。自らを犠牲にしなければならぬ時があります。けれど、それは日常ではありません。ここぞという時にチャンスがあるのです。いつも自分を犠牲にしてないがしろにし、とうとう自分が元気を失い周りを暗くさせていたら意味がありません。私達が輝いていることに意味があるのです。イエス様はそのために十字架にかかれたのです。また、子どもやかかわる人が病気になったり、悩んだりしている時は神様にまず聞いてください。私達が答えをださないように。同時に、子どもたちと神様の間に、かかわっている人と神様の間に私たちが越境して入ってはいけないことも覚えましょう。③**命がけの願を伴う行動。**カナン人の女性は娘の癒しを願って必死です。一度イエス様に断られたからといって引き下がりません。命がけで娘の癒しを願っていたからです。私達の願いはカナン人の女性のように明白ですか？明白に描いていなければ願えません。また、いざ応えられても「違う。」と言ってしまう。もし、願いがわからないのなら、また、サタンによって取り去られているならば神様に聞きましょう。神様の願いは私達を幸せにすることです。だから私達は神様に「神様の願われる私の幸せを教えてください。」と願いましょう。神様の願いと私達の願がマッチしたら幸せになれます。だから、運転手である神様に方向を聞いて進んでいきましょう。（要約者 全本みどり）